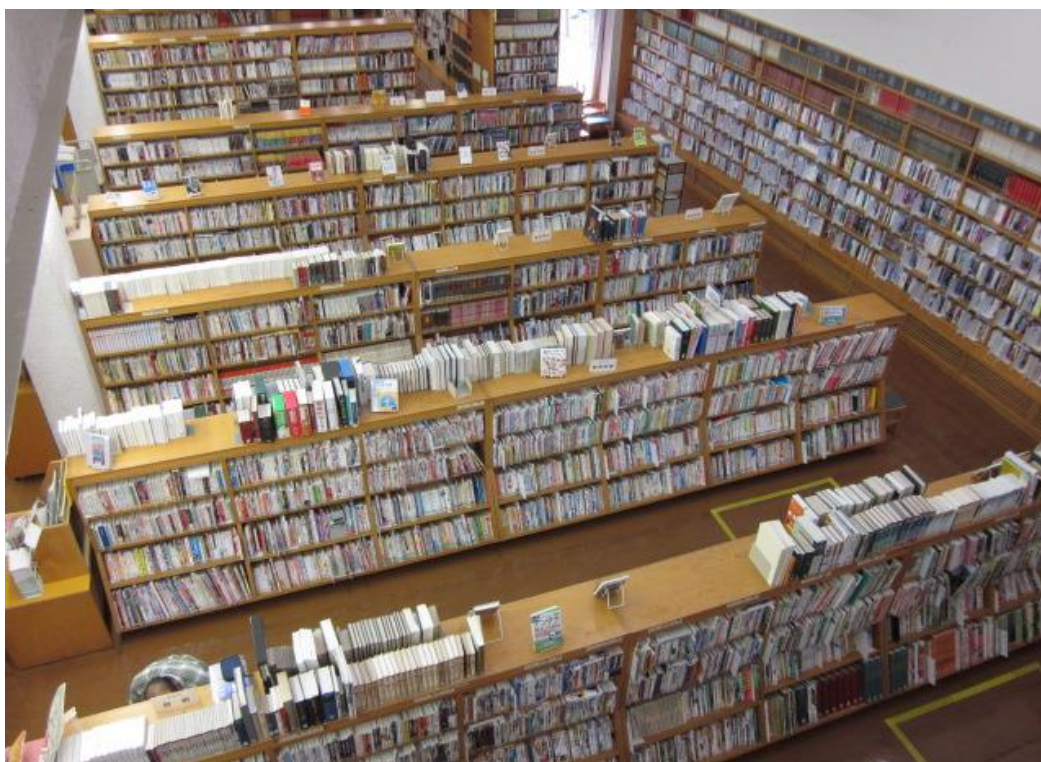


これからも多くの人に愛される “ 岡谷図書館 ” に

提 案 書



平成 2 9 年度

岡谷市社会教育委員の会議

目 次

はじめに	1 P
活動報告	2 P
1 ハード（施設、表示、装飾）	
（1）動線、施設、設備の充実	3 P
（2）表示、案内、装飾	4 P
2 ソフト（企画、運営）	
（1）事業企画	6 P
（2）連携	9 P
視察報告	10 P

I はじめに

知らないことがたくさんあった“図書館の魅力”

岡谷市社会教育委員の会議では「行動する社会教育委員」をモットーに年度ごとにテーマを設け、社会教育に関わる課題等について調査・研究を進めています。

平成29年度は、ベテラン委員に代わって新たに4人の委員を迎えましたが、残りの委員についても4人が3年目であり、経験年数の浅い委員構成で臨んだ1年でありました。

研究テーマについては、昨年度の岡谷美術考古館に続き、生涯学習課の主要施設の一つでもある岡谷図書館にスポットを当て議論をしてまいりました。館のスタッフに施設の案内をしていただき、様々なところに来館者への配慮・工夫がなされていることに気づくことができましたが、裏を返すと、おそらく多くの市民が図書館の魅力やスタッフの頑張りを知らない、ということでもあると思います。

図書館は「読書好き」が集まる場所……。もちろんそうでしょうが、今まで会社勤めや家事に追われ、多忙ゆえに本のある生活ができなかった人や、本の魅力に気づかず生活してきた人、そしてこの施設が心穏やかに過ごせる癒しの空間であること等をご存知ない市民の皆さんに、もっと図書館の魅力を伝えることができれば、さらに多くの新たな利用者が生まれるのではないのでしょうか。

提案内容は、本好きの視点、あまり図書館に行っていない人の視点、お金のかかるもの、かからないもの、様々な角度から提案しています。この提案が岡谷図書館のさらなる活性化の一助となり、文化を核としたまちづくりが進められ、岡谷市の生涯学習がより推進されることを委員一同心より願います。

平成29年12月

岡谷市社会教育委員の会議

会長 今 井 誠

H 2 9 年 度 岡 谷 市 社 会 教 育 委 員 活 動 報 告

平成29年4月1日現在			
氏名	住所	就任年度	備考
今井 誠	長地	H25	元PTA役員
		(3期目)	今井区・上の原小学校区
山田 和男	長地出早	H27	卓球連盟役員、主任児童委員
		(2期目)	横川区・上の原小学校区
間宮 洋子	神明町	H27	子育てミニ集会、子ども会育成会 放課後子どもの居場所づくり事業運営委員
		(2期目)	今井区・神明小学校区
佐々木 るり子	天竜町	H27	ガールスカウト役員
		(2期目)	下浜区・岡谷田中小学校区
林 邦子	川岸上	H27	放課後子どもの居場所づくり事業運営委員
		(2期目)	三沢区・川岸小学校区
宮坂 美津章	長地柴宮	H29	放課後子どもの居場所づくり事業運営委員
		(1期目)	東堀区・長地小学校区
谷口 修治	長地鎮	H29	放課後子どもの居場所づくり事業運営委員
		(1期目)	中屋区・長地小学校区
花岡 文子	湊	H29	公民館活動、地域活動
		(1期目)	小坂区・湊小学校区
清水 雅彦	堀ノ内	H29	地域子育てサポーター
		(1期目)	西堀区・小井川小学校区
酒井 重明	湊小学校		湊小学校長
計10名（任期 平成29年4月1日～平成31年3月31日） *校長会任期は1年			

提案書の検討経過

- 第1回 社会教育委員の会議 5月23日(火) 市役所605会議室
- 第2回 社会教育委員の会議 6月27日(火) 岡谷図書館
- 第3回 先進地視察 7月27日(木) 塩尻市「えんぱーく」
- 第4回 社会教育委員の会議 9月28日(木) 岡谷図書館
- 第5回 提案書の提出、教育委員との懇談会



Ⅱ 提 案

1 ハード（施設、表示、装飾）

社会教育委員の会議において最も多かった意見は「館に来るまでの動線」についてであった。岡谷市民病院への案内が充実していることもあって、「図書館へ行くルートがわかりくい」「迷子になってしまった」「図書館駐車場まで行って満車だとUターンするしかない」「案内看板が見えにくい」など様々な意見が出ている。

芝生広場の藤棚やベンチ、玄関までのアプローチに並ぶ木々がとても風情があり、樹木の紹介や縄文遺跡の説明といった「学び」の工夫も見られるが、この素晴らしい景観の更なる活用を検討するとともに、積極的にメディアに情報を出し、多くの市民にPRを図ってもらいたい。

（１） 動線・施設・設備の充実

①道路に「図書館 ⇒」を表示してはどうか

図書館に行きたいのだが、病院への案内がきれいに整っているあまり図書館に辿り着かない。車道の路面等に表示を出すことで解消できる部分が多いと考えるがどうか。



（運転者からも見やすい案内）

②使用していない看板を活用する

病院の駐車場に一箇所、使用していない看板がある。これを活用して「図書館P直進」というような表記を行い、来館者の誘導に役立ててはどうか。



（運転者からも見やすい案内）

③玄関マットの手入れ

玄関を入ると緑色のスリップ防止のマットが敷いてあるが、フチ部分がめくれ上がっていて転倒の心配や見た目にも印象が悪い。他のマット同様にリース商品にするか、部分補修してはどうか。



（来館者を出迎える玄関）

④正面玄関にある販売機の場所を見直す

玄関を入ると、一番目につく場所にジュースの販売機が2台ある。館内は原則、飲食できないと思うが、あまりに良い場所に置いてあるので「お買い求めの上、中にどうぞ」という誤解をされるくらいに目立っている。

収入確保は大事だが、施設の「一等地」であるので、まずは自主企画等、図書館のPRにこの場所を使ってほしい。また2台あっても買う人にとっては選択肢が増えるのみであり購入量は1台分と差が出ないのでは。



（様々なPRに使える空間）

⑤施設看板設置

病院の陰になっていることもあり、昔から住んでいる人は分かると思うが、引っ越してきた人などは何の施設かわからない。高い位置に大きな看板がほしい。



(何の建物かわかりにくい)

⑥庭の活用

雰囲気の良い庭の「緑陰」を活かしてはどうか。藤棚と木製ベンチも別世界にいる感じが出ている。近くの保育園の遠足や親子が弁当を広げたり、病院に来た人が看護師に付き添われて来ている。

さらに積極的な活用を望む。



(知られていない癒しスポット)

⑦正面アプローチの景観をPR

付近が暗くなると、周辺が薄っすらライトアップされ木々に囲まれた正面アプローチはちょっとした散歩道のようなのである。また、ベンチで休憩しながらのんびり読書できることをPRしてはどうか。



(暗くなると照明で味わいが深まる)

⑧軒下の活用

東面の軒下スペースにベンチを置いてはどうか。奥側は床タイルの破損も見られるが手前側は十分に活用できる。南面にはすでにベンチがあるが、涼みながら読書するには東面も日の差し込みが少ないので良いのではないかな。



(雨風も吹き込みにくい軒下でくつろぐ)

⑨壁面の「ツタ」を活用するかどうか

レンガ調の外壁にツタが繁茂し趣がある一方で、網戸や排気口を塞いでいるため建物の維持管理面で心配もある。施設の長寿命化を考え、建築の専門家に撤去の可否を確認した上で、思い切って伐採することも検討してはどうか。



(壁への負担が心配になる状況)

(2) 表示・案内・装飾

①「靴を脱いでね」

キッズのエリア（緑の絨毯部分）に土足厳禁である旨の説明があるが、これを“足マーク”などイラストで表現して小さい子にもわかるようにしてはどうか。



(文字よりも絵で表現しては)

②キッズコーナーへ椅子設置

歩行スペースが広く確保されているので、子供用の椅子を何脚か設置して、本を手にとった子供が絨毯エリアまで行かずとも、ちょっと座って読める空間を用意してあげたらどうか。



(広い空間を活用しては)

③返却ポストの緩衝を

返却ポストに本を入れると「ドスン」という音がするので本が傷まないか心配になる。クッションが入っているようだが、利用者への細かい気配りとして緩衝のスポンジなどを増量してほしい。



(見えない部分への配慮を)

④返却したての本がわかるようにしては

返却本が元の棚に収まるまでのタイムラグをなくす「一時保管される棚」を設置し、返却本が少しでも早く利用者の目に触れるように配慮してはどうか。返却された本が予約本の場合に仕分け作業があると思うが、読まれている＝人気がある、という指標でもあるので、利用者としては読んでみたい本に出会える可能性もある。



(みんなが何を読んでいるのか参考に)

⑤本入れ用のカゴ置き場を見やすく

借りる本を入れて歩くための買い物カゴが欲しい・・・と思ったら入口の足元に置いてあった。※カゴ置き場と思われる場所にはカゴは入っていない。せっかくの工夫なので利用してもらえよう視線の先に置いてほしい。



(来館者の目線の先に置いてほしい)

⑥紙芝居の色分け分類&裏紙を入れて形を安定させては

色分けされている分類の説明が見づらい。せっかくの工夫なのでより見やすくしてほしい。また、柔らかいビニールケースのため中身が倒れてしまうので裏側に厚紙を入れて安定させてはどうか。

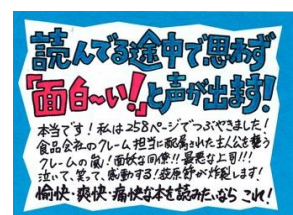


(置き方に工夫が必要では)

⑦装飾が得意なスタッフに「ポップ」を作ってもら

オススメ本があるなら、楽しいポップ装飾で広告してみてもどうか。図書館はどこへ行っても本しかないので、ポップがあれば必ず目を引き、スタッフの意欲が来館者にも伝わると思う。

もし自前で制作できなければ、簡単なものであれば美術考古館の職員が上手なので協力してもらったらどうか。



(プロの技とまではいなくても)

⑧本棚に「悩み相談等を案内するメッセージカード」を設置する

悩みを抱えた人は、何がきっかけで相談に踏み切れるかわからない。関係する本の棚の上を活用して「相談者へのメッセージカード」を設置し、啓発してはどうか。

(例) 子育て関連本の位置に「児童虐待相談カード」



(本棚と関連するメッセージカード)

2 ソフト（企画、運営）

担当職員から各種事業の説明を受けたが、実に多くのイベントを行っていることがわかった。また館内の視察を行ったところ、利用者のことを考えたアイデアやスタッフの心遣いが随所に見られた。

しかしながら、これらの館の努力や工夫といったメッセージが広く市民に届いているかという点においては「もう一步」であるように思う。読書好きの人や各種イベント対象者へのPRはできていると思うが、これからの館は、新規の顧客を確保する活動、つまり“今まで図書館に来たことが無い人”に向けた“あなたも気軽に楽しめる施設”であるというPRが求められると考える。

(1) 事業企画

①来館者への“笑顔”と“いらっしゃいませ”

今は来館者に対し“こんにちは”と声掛けしているようだが、サービス業として考えれば“いらっしゃいませ”が良いのでは。玄関から入ってきた方には“いらっしゃいませ”と出迎え、館内ですれ違う時には“こんにちは”と軽く会釈する感じが良いように思う。

何より接客業は「笑顔」が大事であるので、さらに全職員への意識づけをお願いしたい。

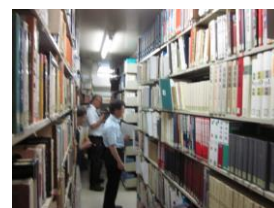


②地下書庫のミステリーツアー

夏の暑い時期に図書館内を探検できるツアーを企画してはどうか。親子10組くらいのイメージ。涼しい地下書庫に行き自分が生まれた日の新聞を探してくる、などいくつかのミッションを課す。

地下など目の届かない箇所には安全管理スタッフが監視を兼ねて待機すれば入室しても問題ないと思う。職員がゲーム攻略のヒントを出したりクイズなども織り交ぜツアーを行う。

賞品はコストを抑え、新聞コピーや廃棄予定の本などを贈呈する。



(普段は入れないというプレミア感)

③本のコンシェルジュ（案内人）

図書館に不慣れな人にとっては、どこに何の本があるのか、何を借りようか、おすすめの本は？等々、誰かにいろいろ質問したいのだが、大勢の人がいる前でカウンターの中で別業務をしている職員の手を止めて質問するのは勇気が要る。エプロンにバッジ（手作り）をするなど他の職員と区別する形で“本のコンシェルジュ”を配置し、時おり巡回して本を探している人がいれば「何かお困りですか？」とこちらからさりげなく声掛けすれば尋ねやすい。



④上記に関連して

上記は、追加の採用を望むものではなく既存職員配置内での提案であるが、仮に既存スタッフが案内できない場合でも「わからない時はお気軽に声をかけてください」という館内表示があるだけでも慣れない利用者は有り難く感じる。

⑤図書館スタンプラリー

下諏訪図書館が小さい子どもを対象にやっているようだが、館内に本に関連する問題が書かれたチェックポイントがあって、それに全問正解すると100円ショップで買えるような「おもちゃ」を受け取ることができる。

図書館が小さい子どもでも楽しめる場所であることをPRするには良い企画だと思う。



⑥利用者カードの出張PR

成人式や新入社員激励会などのイベントに出張して「利用者カード」の作成をPRできないか。データ登録作業が必要とのことなので出先では難しい部分もあるだろうが、申請書の受付や、宣伝だけでも可能では。



（成人式で行った無料古本市）

⑦「あなたに合った本をセレクトします」サービスの実施

例えば、就職を考える学生に向けたおすすめ本をリストにして対象学生のいる大学にPRする。子育てに関するおすすめ本をリストにして母親の集まる会で配布する。また小学生向けの英語の本をリストにして教職員に配布する、といったように「ある団体やニーズに対して、関連本を“串刺し”にして紹介する」サービスを行ってはどうか。

他市では既に「ご希望に沿う本を集めるお手伝いをします！」というサービスを行っているところもある。



（リストがあれば嬉しい！）

⑧遺跡の紹介コーナーに土器を置く

通路に「縄文時代の石囲炉」の紹介があるが、この場所に土師の会が作ったレプリカ土器を譲り受けて置いたらどうか。土に埋まっている様子を再現するか、または並べて生活感を出すか利用をしてみてもいい。



(せっかくの工夫をさらに面白く)

⑨新聞を活用し多くの人に伝える

人気ランキングを紹介したコーナーや、闘病記コーナーは新聞で紹介すれば広く伝わり、興味を持つ人が出てくるように思う。また、大活字本の存在や高齢者向けの紙芝居があることも知らない人が多いと思う。地元メディアを活用することにより高齢者団体など今まで利用していない「新規利用者」の掘り起こしが見込める。



(企画内容が伝わりにくい・・・)

⑩グリーンカーテンで採れたゴーヤを配る

グリーンカーテンで収穫した産物（図書館はゴーヤ）を来館者にプレゼントしてはどうか。副産物なので偶然性のある配布方式で良いと思う。本とは関係なくても図書館の話題づくりになる。不要なら次の人にスライドして配布することもできる。



(ちょっとした楽しみ)

⑪「E I G O」で読み聞かせ

国際交流員の協力によって小学校児童を対象に英語に親しめる読み聞かせをやったらどうか。日本語と英語を織り交ぜることで「読書普及」と「英語の学習」が行える。



⑫看護師が読み聞かせ

岡谷市民病院の協力により、図書館まつりなどの機会に子供たちに対して“病気を治すテーマの絵本”を読み聞かせしてもらいたい。体のことで注意する点などのレッスンも織り交ぜて。



(2) 連携

①バス停でのサービスとして

岡谷市民病院のシルキーバスのバス停に図書館の本（雑誌など）を置いて、読みながら待ってもらってはどうか。また、おススメ本やベストセラーの紹介などしてはどうか。



(待ち時間の有効活用)

②近隣高校に向けてのPR活動

「図書館の場所が分からない」若者も多いと考えるため、市内の高校に直接出向いて図書館の存在をPRしてみてもどうか。

1度来れば2度目からは場所は分かるし、2階の学習室は、集中して勉強するのに恰好のスペースであるが、その存在を知らない若者がいるように思う。高校へのポスター掲示やチラシの配布も有効だと思う。



(本気で勉強する学生集合！)

③団体や商業施設との連携

高齢者クラブなどで大活字本や高齢者向け紙芝居の存在をPRしたり、新聞に目を通す日課の高齢者が多いことを想定して、新聞を活用してPRしてはどうか。また、カルチャー、ロマネットなどの街角図書館にも設置してはどうか。



(知られていない大活字本)

社会教育委員 視察報告

塩尻市図書館 えんぱーくを訪問して

登録者38,000人（市外9,000人）塩尻市民一人当たり10冊の貸し出し数。本の修理は市民サポーターに協力してもらう仕組み。職員は皆明るい対応に心がけており、視察の我々に対しても「こんにちは」と挨拶をしてくれた。先進的な施設面での差は仕方ない。しかし来館者に向けた「職員対応」や「細かい心配り」は岡谷図書館においても見倣う点がある。



まだ数年分の余裕がある書庫



子どもを正面に見ながら本探し



副館長による館の案内



子育て支援センター併設



地元商品の紹介も



きめ細かいサービスの一例



面展示で手に取りやすく



スチール壁なので装飾は磁石



絵本専門士が2名常駐